

きっしょういんろくさい
吉祥院六齋

羽柴秀吉と明智光秀が戦った山崎の合戦で、この地に落ちて来た光秀軍の武者が死んでそのままに放置されていた時、地元住民がその御霊を慰めたことに由来して始められたという説があります。

吉祥院の地には過去、一ヶ村各字に一組ずつの六齋講がありました。すなわち東条、西条、北条、南条、石原、新田、中川原、島の八つの団体に、現在はこのうちのたった一つ、**南条のみ**が吉祥院六齋を公演しており、別名これを**菅原組**と呼びます。

かつては25日の奉納は各団体の競演のため26日の朝まで続くこともしばしばでした。

激戦区で培われた腕は確かで、戦後、東京青年会館の郷土芸能の会に出演した折には、「余り上手でアマチュアの農民の娯楽芸能と認められない、プロだ」と評されました。

昔はしきたりも厳しく、15歳になって入会が認められると、まず「茶番」という下積みを2、3年経験し、そうしてやっととりあえず舞台に立つ資格を得られたそうです。

曲目：発願、つつて、お月さん、朝野、四ツ太鼓、あづさ、蟻ねずみ、安達ヶ原、鉄輪、玉川、晒、盛衰記、大文字、祇園囃子、羽衣、岩見重太郎、獅子太鼓、獅子舞、獅子と土蜘蛛、和唐内、回向唄 + 焼香太鼓

発願



つつて



朝野



四ツ太鼓



近年は小学生がメインで演奏を見せます

安達ヶ原



軽快な曲に合わせておかめとひよとこが危機一髪の恐怖体験を説明しています

大文字



大文字屋の番頭が主家の娘に惚れたのを囃し立てる様子を表すそうです

羽衣



迫力のある早打ちの名曲

岩見重太郎



「さては妖怪変化であったよな、いで岩見重太郎兼介がヤ退治してくれん」

岩見氏(右)が変化氏(左)を退治する立ち回りです



妖怪変化を倒した後、変わって現れたヒビ(猿)と対決します

獅子舞



頭が緑色で、胴が橙色という配色の獅子が出るのは、この吉祥院だけ

吉祥院天満宮

(南区西大路十条西入北)

市バス『吉祥院天満宮前』が最寄

4/25 春期大祭 20:00～

8/25 夏季大祭 20:00～

夜店が出ます

[他の吉祥院六齋の曲目一覧](#)

焼香太鼓



吉祥院六齋で現行唯一の念仏曲です。上記芸能公演の日とは別に、特定の場合にこの曲だけを独立して奉納します。芸能六齋講が行う六齋念仏であり、顔ぶれも同一です。

空也堂系の六齋念仏であり、上烏羽橋上のものとほとんど同じです。奉納先正面に導師(念仏先導役)が位置し、その両脇に鉦方が並び、太鼓方はその列に垂直に二列対面して立ちます。導師と座(導師以外の者)が掛け合いで念仏曲を唱和し、鉦、太鼓の演奏がそれに加わります。

西教寺
(京都市南区吉祥院菅原町)

報恩講
(年2回春秋)

吉祥院六齋保存会